

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

ポスター発表

「なぜ中東の権威主義体制は持続しているのか？—サッダーム・フセイン政権下のムハーバラートとその役割について」

伊藤慎一郎（広島大学大学院博士課程前期）

新型コロナウイルス蔓延により、感染防止策や開催形態の変更を余儀なくされるにも関わらず、ハイブリッド形式でのセミナー開講、そして無事に4日間を終えれたことを嬉しく思います。運営に当たってくださったAA研、スタッフの皆様のご尽力により、多くの学びを得ることができました。誠にありがとうございました。中東をフィールドに研究を行う学生との交流が少ない私にとって、本セミナーは、楽しく、そして今後の研究の幅をさらに広げる糧になったと感じています。私が本セミナーを受講し得られた知見ならびに感想は、以下の2点に要約できます。

第1に、多様なディシプリンを持つ教員や学生の発表は、自身のディシプリンの枠を超え、中東地域研究の多様性と奥行きの実感する機会になりました。これまで私は、比較政治学をディシプリンとするため、歴史学や人類学の研究発表に触れることはありませんでした。換言すれば、中東地域を探究するための多様な視角があるにも関わらず、比較政治という限られた方法しか知らない状態でした。本セミナーは、そのような蛸壺状態から抜け出す機会であったともいえます。普段の研究生活だけでは瞳に映らないような研究事例に触れられたことは、私にとって、今後の研究に含みをもたせる時機であったともいえます。

第2に、本セミナーの発表は、自分の興味関心を具体的に言語化しながら研究に結びつける機会になりました。とくに印象的だったのが、私のポスター発表、その後のフィードバックで、「あなたが主張したいこと、関心のある事柄、そして研究内容とどのようにつながっているの？」というコメントをいただいたことです。それは、研究発表らしい体裁を整えることに重きを置きすぎて、私の主張や関心と研究内容が結びついていないことを的確に指摘するものでした。また、この指摘は、異なるディシプリンの研究者に自分の研究をわかりやすく伝えられなかったことを裏付けるものでもありました。他の教員や学生との対話を通じて自分の興味関心を言語化しながら研究と結び付けられるよう修正する機会になった、と感じています。

総じて、本セミナーは「教育」を冠するように、学びが多く、極めて有益なものでした。社会情勢に左右されてしまいますが、今後も、継続して開講されることを望むとともに、再び参加できることを切に希望します。繰り返しになりますが、運営に当たってくださったAA研やスタッフの皆様、本当にありがとうございました。